

重点的に現状の評価を行う火山の選定の考え方(案)

定例開催における評価対象火山(令和6年4月23日 第1回火山調査委員会)

- ・111の活火山の現状の評価を実施。
- ・当面、噴火中や火山活動に変化が見られる火山を優先して重点的に現状の評価を行う。

○重点的に現状の評価を行う火山(重点評価火山)の選定の考え方(案)

火山活動の評価に必要な調査研究を推進するため、

- ① 評価対象期間中(1年間)に噴火が発生した火山
 - ② 火山活動に変化が見られ、想定される火山活動の推移等(噴火の可能性や噴火した場合の推移、ハザードの予測等)の評価が必要な火山
 - ③ これまで静穏であったが、火山活動に変化が見られ、現状把握と活動推移に関する評価に必要な調査研究や過去の事例等が不十分な火山
- について、特に②と③は、評価に必要な観測データや調査研究等の充実等の検討が必要な火山を優先し、火山調査委員会委員の意見により、対象火山を決する。